

2010年5月26日

**幻の香り素材「<sup>りゅうぜんこう</sup>龍涎香」の精油を抽出****「国際生物多様性年 大哺乳類展-海のなかまたち」で展示**

株式会社カネボウ化粧品



提供：国立科学博物館

カネボウ化粧品は、国立科学博物館・動物研究部脊椎動物研究グループ 山田 格グループ長との共同研究により、幻の香り素材として知られる「<sup>りゅうぜんこう</sup>龍涎香 (Ambergris)」の精油を抽出しました。

精油は、同博物館が開催する「国際生物多様性年 大哺乳類展-海のなかまたち」にて展示します。(所在地：東京・上野、期間：2010年7月10日～9月26日) 会場では、いまや伝説となった幻の香りを楽しむことができます。

※ 画像をご掲載いただく際は、必ず「提供：国立科学博物館」と明記願います。

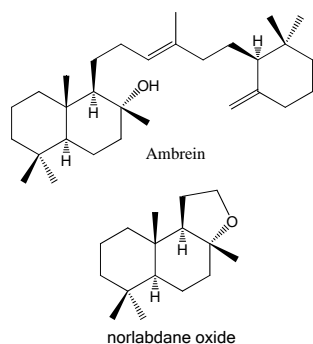
**幻の香り素材「龍涎香」とは**

「龍涎香 (Ambergris)」は、麝香(ムスク)と並び最も高価で貴重な天然の香り素材のひとつとして知られています。黒色、茶色、灰白色が混ざったような油性の塊であることから、琥珀を意味する「amber」と灰色を意味する「grey」を合わせ「Ambergris」(アンバークリス)と名づけられました。中国では「龍の<sup>よだ</sup>涎れの香り(龍涎香)」と呼ばれています。「龍涎香」は、インド洋などの海上に漂っていたり、海岸に打ち上げられるなどして偶然に発見され、それがなんともいえない良い香りを醸し出していることから、次第に珍重されるようになりました。

「龍涎香」については、6世紀のペルシャ帝国皇帝に献上されたというような伝説がいくつも残っているほか、后シェラザードがペルシャ王であるシャハリヤール王に千一夜かけて語ったといわれる「千夜一夜物語(アラビアンナイト)」(パートン版)の中にもしばしば登場します。6～7世紀にはアラビアで既に使用されていたという記録があり、その後もビザンチン帝国の皇帝、中世ヨーロッパの王族、貴族等に珍重され、貴重な香り素材として様々な香水の原料に使用され続けました。例えば、残されている1500年代、1600年代の王室女性の香りには、「龍涎香」が重要な香り素材として用いられています。

「龍涎香」の正体は19世紀になっても不明でした。当時は、蜂の巣が海に落ち、それが海上を漂ううちに太陽の光を浴び、変化したものである等といわれていました。やがて「龍涎香」の塊の中からイカの<sup>くちばし</sup>嘴(モンゴウイカ、ヤリイカ等)のようなものが見つかり、また、近代捕鯨が始まると、マッコウクジラの体内から「龍涎香」が見つかるようになったことから、マッコウクジラが、自分が飲み込んだイカの嘴によって腸内が傷つけられるのを防ぐために、腸壁から分泌液が出され、それが嘴などを包み込むようにしながら固まり、やがて排泄物として、または何らかの要因により体外に出されたものであると推察されるようになりました。しかし、現在は入手できる機会が皆無に近くなり、詳しい生成過程を確認することもできず、伝説の香り素材となって歴史の中に消え去りました。

## 「龍涎香」の精油を抽出する試み



この「龍涎香」が国立科学博物館に長い間所蔵されていたことがわかり、このたび、カネボウ化粧品では、国立科学博物館・山田格グループ長と共同で、幻の香り素材「龍涎香」を甦らせることを試みました。

まず、本物の「龍涎香」であるという鑑定を、ガスクロマトグラフィーを用いた質量分析法（GC-MS）、液体クロマトグラフィーを用いた質量分析法（LC-MS）、核磁気共鳴装置（NMR）等といった、最新の分析手段により調べました。

その結果、アンブレイン（Ambrein）をはじめ幾つかの含有特有成分が確認でき、本物で、しかも良質の「龍涎香」であることが判りました。

「龍涎香」は、保管の状態などにも影響されるものの、そのまま放置しておいても時間が経つと少しずつ「龍涎香」特有のエキゾチックな「アンバーgris」の香りがしてきます。しかし、一般には「龍涎香」をアルコールに溶解させ、数ヶ月以上、長いものでは1年以上、一定の環境下で低温熟成させることで、特有の香気成分であるノルラブダン オキサイド(norlabdane oxide)等がより多く生成され、香りの質の高い「アンバーgris」香が得られます。

今回、カネボウ化粧品では、国立科学博物館の「龍涎香」のごく一部を、数か月間低温熟成させ、それを濾過等することにより、「龍涎香」の精油である「アンバーgris・チンキ（Ambergris tincture）」を抽出しました。出来上がったものは黒茶色を呈し、独特の甘さとウッディ、マリン調の香り「アンバーgris」香を持っています。

この精油を「国際生物多様性年 大哺乳類展—海のなかまたち」にて展示します。

なお、今回の研究では、曾田香料株式会社の協力も得ています。

## 開催概要

1. 展覧会名：「国際生物多様性年 大哺乳類展—海のなかまたち」
2. 開催期間：2010年7月10日（土）～9月26日（日）
3. 会場：国立科学博物館
4. 主催：国立科学博物館、朝日新聞社、TBS
5. カネボウ化粧品の技術協力内容：

幻の香り素材「龍涎香」の精油を抽出し、来場者にその香りを試してもらうよう、会場に展示